

事務事業 No./名称	■サービス部門 環境-04 植木剪定材堆肥化事業					0			
	□支援部門					1102	植木剪定材堆肥化事業		
主管課	資源循環課 関連課 名越・今泉クリーンセンター								
分野名	生活環境								
目標 (目標値)	循環型社会の形成を目指して、植木剪定材の資源化(堆肥化)を推進するとともに、生成された堆肥を市民や市内農家に配布し、資源の循環を図る。								
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考					
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯						
運営資源 状況	決算値	141,794千円	151,228千円						
	(国・県)								
	(負担金等)	79,114千円	77,573千円						
	(一般財源)	62,680千円	73,655千円						
	人員配置数	1.0人	1.0人						
	人件費	8,973千円	9,387千円						
	協働の パートナー	(株)富士リバース							(株)富士リバース
事務事業 運営経費	総事業費	150,767千円	160,615千円	20年度	4,650t	4,871t			
	市民1人当 りの経費	853円	910円	21年度	4,700t	4,953t			
	対象者1人 当りの経費			22年度	4,750t				
ベンチマ ーク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名	横浜市	横須賀市	逗子市	藤沢市	鎌倉市	23年度	4,800t	
	資源化率	27.9%	36.0%	24.4%	31.5%	47.8%	最終年度 (27年度)	5,000t	
創意・工 夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・なし							
	創意・工 夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・植木剪定材堆肥化事業による資源化量は、本市の総資源化量の約三分の一に相当し、リサイクル率日本一(10万人以上の都市)に大きく貢献した。							
	未解決の課 題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・家庭系ごみ質(燃やすごみ)の組成調査結果では、依然、資源化できる植木剪定材が約2.8%含まれている。							
	今後の方針 (対応・改 善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・燃やすごみに資源化できる植木剪定材が混入しないように、説明会等で市民・事業者に対して啓発していく。							
一次評価(課長評価)					二次評価(部長評価)				
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了									
評価結果	改善の必要性	本市から発生した植木剪定材は堆肥化され、多くの市民等に広く活用されている。今後も事業を継続し、資源の循環活用を実施していく。			評価結果	改善の必要性	植木剪定材の堆肥化は、本市の地域特性を生かした独自の取組であり、循環型社会の形成に寄与している。今後も本事業を継続していく。		
B	無				B	無			
課長名		古屋善啓			部名・部長名		環境部 相澤 千香子		